

# 活動報告書

報告者氏名：岡村真子 所属：長野県木曾養護学校 記録日：2012年2月

## 【対象児（群）の情報】

- ・ 学年  
小学5年生の男児
- ・ 障害名  
自閉症  
先天性サイトメガロウイルスによる左耳難聴  
運動発達の遅れ
- ・ 障害と困難の内容  
自閉症による言語理解・言語表出の困難  
運動発達の遅れによる書字困難

## 【活動目的】

- ・ 当初のねらい  
表出方法を獲得していないために不適応行動によって自分の思いを表現している対象児が、適切な表出方法を獲得し不適応行動を軽減していくことをねらいとした。
- ・ 実施期間  
5月より
- ・ 実施者  
岡村真子（教諭）
- ・ 実施者と対象児の関係  
担当教諭

## 【活動内容と対象児（群）の変化】

- ・ 対象児（群）の事前の状況  
対象児の言語理解をみると、名詞や動詞の理解はあり、わずかではあるが2語文も話すことができた。ひらがなを習得しており、運動発達の遅れにより書字は困難であったが、発音はおおよそ正しくできていた。

しかし、自分のやりたいことがあったときに言葉で伝えられない対象児は、泣く、ドアを開け閉めする、トイレに行くなどの方法で、伝わらない思いや気持ちを表現していた。

そこで、遊びの指導の時間に、かくれんぼが好きだった対象児に「かくれんぼください」という言葉で要求するとかくれんぼが行われる場面を設定したところ、「かくれんぼ」と言って言葉で要求できる姿が見られた。

- ・ 活動の具体的内容

個別の学習場面において、言語理解を促しつつ、実際の生活場面で対象児がやりたいことを要求する場面を設定し、具体的な表出方法を教えていくようにした。

個別の学習場面では、iPadのカメラで大好きな先生の動画を撮影し、誰が何をしているのか顔写真カードと動詞カード（シンボルと文字）を用いて答える学習を行った。

実際の生活場面では、まずは対象児が好きなアプリをやることを要求する場面を設定し、「iPadください」という言葉で要求することを覚えていった。その要求がスムーズに行えるようになったところで、その他の場面でも必要な物や遊びを要求する場面を設定し、毎日繰り返し要求行動を引き出す取り組みを行った。物の名前を初めて覚える場面や、名前を間違えている場合、言い方が間違っている場合には、iPad、iPod touch、携帯で（場面に応じて）その物の写真を取り、そこに文字で物の名前を記入し正しい名前や発音を確認するようにした。

・対象児（群）の事後の変化

個別の学習場面では、正しく答えられる動詞や名詞の数が増えてきた。

生活場面では、自ら「○○ください」という形で要求することができるようになった。間違いを正そうと iPod touch 等を教師が取り出すと、自分から画面を覗き込み確認し、言い直す姿が見られるようになった。要求行動がスムーズに行えるようになると、不適応行動も減っていった。

また、楽しかったことやうれしい驚きを言葉で伝えようとする姿も見られるようになった。言い方がわからないときも、耳に手をあててこちらが音声で教えようとするのを待つようになった。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

要求の方法を獲得したことで、生活全般に落ちつきが見られるようになった。笑顔で過ごす姿も増え、自分から人に、はたらきかける姿も増えた。また、並行して、自閉症の特性に応じた支援（学習環境の調整やスケジュールの丁寧な確認等）を充実したり、好きなことをする時間を保障したりしたことも、この変化には影響があったと思われる。

・エビデンス（具体的数値など）

事前の状況では毎日のようにあった不適応行動が、1週間に2度程度に減った。また、不適応行動を行っている時間も短くなり、一度行動を始めると以前は情緒的に不安定な状況が半日続いていたが、数分から数十分で安定を取り戻すようになった。

・その他エピソード（画像などを含めて）

教室では違うアプリの入った iPad を2台使用していた。iPad のケースを黄色と黒の2色用意して使用していたが、「きいろ」とつぶやいて黄色のケースに入った iPad を使いたいことを要求してくる場面があった。そこで、「黄色 iPad ください」と言って要求することを教えると、次から「○色 iPad ください」と言って場面に応じて使いたい方の iPad の色名を前につけて要求するようになった。

